



Noguchi Times

NOGUCHI INTERNATIONAL BUSINESS CONFERENCE NEWS Vol. 5 2015.1.15



米国財団法人野口医学研究所 評議員会副会長
一般社団法人野口医学研究所 社員

澤田 崇志

CONTENTS

■ご挨拶	p2
■第15回NIBC開催内容報告	p3
■Winter Symposium開催報告	P4
■浅野嘉久個人からの寄附	p5
■提携クリニック見学ツアー	p6
■賛助会員のご紹介	p7
■野口記念インターナショナル画像診断クリニックのご案内	P7

ご挨拶

原因療法の必要性

2015年新春を迎え謹んでお慶び申し上げます。本年も野口医学研究所と関係者様の益々の発展をお祈り致します。私が野口医学研究所に参加として参加させて頂いてから、早や1年4ヶ月が経ち、様々な機会を頂戴し、感謝に堪えません。

日本は、世界に先がけて長寿社会に入り、健康長寿社会の実現へと進んでおります。

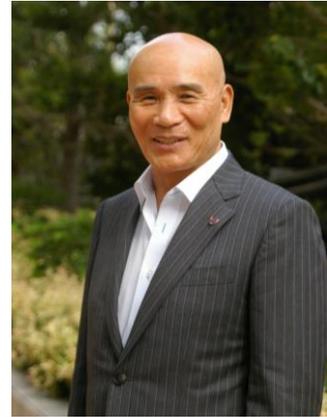
今後、我々参与会をはじめ、野口医学研究所の役割は、大なるものと思われます。

この健康長寿を実現するためには、病気を未然に予防すると共に適切な治療をすることが大事だと思ひます。

“時いた種は刈り取る”という古代からの原因と結果の法則についての教えがあり、あらゆる結果には必ず原因が潜んでいるということで、病気についても症状が現れる前に必ずそれが現れるべき原因があるということです。

その根本原因は、“病は気から”といわれている“気”つまり、その人の意識のあり方・心の働きにあります。病気はその人の意識のあり方・心の働きによってそれが12脳神経に影響し、脳神経から12内分泌腺に影響を与え、内分泌腺からの内分泌物が関係12器官に影響を与えて、病気が出現するという順序を経ています。例えば、肝臓に病状が現われたとします。その直近の原因は脳下垂体の内分泌腺の異常であり、内分泌腺の異常は第一脳神経の異常に原因があり、そして、第一脳神経の異常をもたらした原因がその人の意識のあり方・心の働きにあるということです。この様に肝臓異常の根本原因は或る意識のあり方・心の働きにあるのです。従って、結果の現われとしての病状を完全に治療するには、現代の偉大なる様々な科学的な対処療法に加えて前記の原因をたどり、根本原因にと達し改善をすることが原因療法で、この両者のバランスが重要だと考えます。健康長寿であるための原因づくり、つまり病気にならない意識のあり方・心の働きについて尚一層の研究と努力が必要かと思われます。これらを成し得るのが野口医学研究所の“患者優先の医療の実現”という理念であると思料されます。

そして、我々参与会はNIBCを通じて野口医学研究所の発展と総ての人々の健康長寿の実現に魂を込めて全心全霊で取り組むことをここに強く意志しましよ。



米国財団法人野口医学研究所
参与会参与 別所 憲隆

第15回NIBC開催内容報告

(NIBC : Noguchi International Business Conference)

2014年10月9日 (木)

於：野口医学研究所 9階会議室

あなたの能力が未来を決める —無限の可能性を持つあなたの能力の開発方法—

頭の良し悪しは、頭蓋骨の大きさで決まるものではありません。人は皆、潜在的に「脳力」を持っており、その「脳力」は、自分の気持ち次第でいくらでも発達させることができます。気持ちが変わると考え方が変わります。考え方が変わるとそれがモチベーションになり、行動が変わります。行動が変わると結果が変わります。つまり、良い暮らしが出来るようになり、幸せな未来になるのです。他人と協力し合いながら生きる我々人間にとって、「脳力」の発達には「コミュニケーションの理解」が欠かせません。周りの人に対し、印象を良くしようと本気で思い、行動を変えていくことが大切です。たとえ苦手であっても、3ヶ月間続けてみて下さい。徐々に細胞が覚えていき、必ずや実力が身に付きます。貴方は自分に自信を持ち、更に「脳力」を発達させることでしょう。明るい未来はもう貴方のものです。



株式会社ジーアップキャリアセンター
代表取締役社長 加賀 博

症例から学ぶ —セカンドオピニオン外来のいま その2—

主治医以外の医師から意見を求める事をセカンドオピニオンと言います。前回に続き、今回もセカンドオピニオンの事例をご紹介します。

まず1つ目の症例では、寝汗と発熱症状を訴える患者ががんと診断され、セカンドオピニオンで受診しました。PET検査を行ったところ、腹水と炎症が見られ、粟粒結核と腹膜炎という診断に変わりました。これにより、がん治療から抗結核剤に変更になりました。また、別の症例では、急性脳梗塞で3カ月治療を行っていた患者が、病状の悪化を心配しセカンドオピニオンで受診しました。結果、脳表に対する炎症で中枢神経が溶けてしまうクロイツフェルト・ヤコブ病（難病）だった訳ですが、これは、MRIを正確に読影することで正診できた例です。脳外科の専門医でも見落とししてしまうことがあり、セカンドオピニオンは重要です。この病気は潜伏期間が長く、発症した場合早く進行する為、現在治療法が見つかりません。3例目は、乳がんが乳房切除後、断端陽性で再手術したケースがありました。PEM（陽電子放射乳房検査/日本に2台のみ：乳房専用のPET検査）でのみ見えるがんがあるので、術前検査にPEM検査を勧めています。



米国財団法人野口医学研究所 理事
野口記念インターナショナル画像診断クリニック 院長
佐藤 俊彦

このような事例を考えると、ご自分の病に対して納得の行く治療法を見つけることが重要であると思います。是非、セカンドオピニオン外来でご相談ください。

Winter Symposium開催報告

2014年12月7日（日） 於：野口医学研究所 9階会議室

「財団野口」では毎年医学教育・交流セミナー及び米国医学研修生の選考会を実施しています。今年にはトーマスジェファーソン大学から特別ゲストとして、Dr. Joseph S. GonnellaとDr. James B. Erdmannをお招きし、大変貴重なシンポジウムとなりました。米国臨床研修を目指す参加者は皆、熱心に耳を傾けていました。

Joseph S. Gonnella, MD

James B. Erdmann, PhD, FSAHP

熱心に講演を聞く参加者



野口医学研究所はこれまで永年に亘り数多くの若手医師や医学生、コ・メディカルスタッフの留学を支援してきました。今年も米国医学研修の機会を得ようと意気込んだ35名の熱意ある医師、医学生の応募があり、当日は(日本語による総合面接と英語による一般英語と専門英語に関する面接)を実施しました。

課題として与えられた『他己紹介』に備えて
情報交換し合う受験者達



選考会終了後の懇親会で、選考委員からアドバイスを
受ける受験者達



浅野嘉久医学博士からの寄附

2014年12月8日（月） 於：レストラン ベッラ・ヴィスタ

浅野嘉久名誉理事個人から、トーマス・ジェファーソン大学副学長・医学部長代理 チャールスA.ポール教授へ100万ドルを寄贈しました。

米国財団法人野口医学研究所創立者・名誉理事である浅野嘉久博士は、2014年12月8日、米国トーマス・ジェファーソン大学副学長・医学部長代理 チャールスA.ポール教授に対し、博士個人として100万ドルの寄贈を致しました。この寄附金は、浅野博士のトーマス・ジェファーソン大学終身名誉医学部長、ジョセフS.ゴネラ教授との永年の友情と尊敬への証として、感謝を込めて為されたものです。また、ポール教授の、“医師へは医療技術だけでなく、徹底したヒューマニティの教育をすることこそが大切である”という理念に深く共鳴した結果として、実現に至りました。

To provide collaborative, compassionate patient- and family-centered care, doctors must possess good interpersonal, humanity, and empathic skills.

医師へは医療技術だけでなく、徹底したヒューマニティの教育をすることこそが大切である。

Charles A. Pohl, MD
Associate Provost & Senior Associate Dean
Thomas Jefferson University



このCitationは聖路加国際病院名誉院長の日野原重明先生を囲む親睦会の中で実施しました。



宇都宮セントラルクリニック 見学ツアー

去る2014年11月29日、野口記念インターナショナル画像診断クリニック並びにその関連施設のエージェントとしてご登録頂いた方々を対象に『宇都宮セントラルクリニック&ブレストセンター』の視察旅行を実施しました。

宇都宮セントラルクリニック

患者様の健康維持に寄与することを目的とし、各種の最新鋭医療機器を揃え、如何なる検査にも対応できるようになっています。男性と女性が顔を会わせることがないように配慮されており、非常に落ち着いた雰囲気での検査を受診できるのも大きな特長の一つです。

ブレストセンター

女性が最も罹患しやすいがんである「乳がん」の早期発見・早期治療を目的とした女性専用の検査施設です。乳腺分野に特化した画像診断機器を導入し、質の高い医療を提供しています。通常強い痛みを伴うマンモグラフィー検査も、北関東で初となる最新鋭機器の導入により、痛みを伴わずに精度の高い検査を受けることができます。

エージェント様限定の特別企画
宇都宮セントラルクリニック & 栃木名物宇都宮ギョーザ堪能ツアー

野口記念インターナショナル画像診断クリニック並びにその関連施設のエージェントとしてご登録頂いた皆様を対象に、宇都宮セントラルクリニックの施設ツアーを実施します！当日はクリニックの見学に加え、栃木県名物の宇都宮ギョーザをご堪能頂けるよう企画しております。
人数限定の特別企画です。早割ご予約下さいませ！

【日 程】2014年11月29日(土)
8:15 集合、16:00 解散予定

【参加費】3,000円

【スケジュール】※スケジュールは変更となる場合があります。
8:15 集合 (野口医学研究所内)
8:30-10:40 出発・移動
10:40-11:40 施設①宇都宮数子院インター店 (宇都宮ギョーザ)
12:00-13:00 宇都宮セントラルクリニック、ブレストセンター見学
13:00-16:00 帰路 (途中、野宮SAにて休憩)
16:00頃 解散 (野口医学研究所内)

【会場】一般社団法人野口医学研究所
栃木県宇都宮市西1-22-11 野口ビル5階 TEL 03-5501-0130



宇都宮セントラルクリニック並びにブレストセンターは日本で有数の設備を備えています。アクセスの面に於いては不便な部分もあります。そこで、検査だけを宇都宮で実施し、診察や検査結果の確認、治療等を虎ノ門の画像診断クリニックで行うという方法をとって頂くことも可能です。是非多くの方に利用して頂ければと考えています。

宇都宮セントラルクリニック
マネージャー 高田 健一



野口記念インターナショナル画像診断クリニックは上記提携施設との連携により質の高い医療を提供して参ります。今後も皆様の活動に役立つ情報の配信を行い、イベントを企画致します。興味のある方は遠慮なく下記までお問い合わせ下さい。

お問い合わせ：一般社団法人野口医学研究所 担当：榎本 03-3501-0130

賛助会員のご紹介

「財団野口」は、国際医学交流の推進を目的とした活動を永年に亘り続けてきました。日本が生んだ世界的医学者・野口英世博士の偉大な業績を称えその遺志を受け継ぐためには、国際医学交流活動は不可欠であると考えています。活動に当たっては外部の方々のご支援・ご協力が必要であり、その一つの方法として、“賛助会員制度”を設けています。『Noguchi Times Vol.5』ではアポロメディカルホールディングス株式会社様をご紹介します。

アポロメディカルホールディングス株式会社様のご紹介



アポロメディカルホールディングス株式会社は、創業以来、地域医療の向上、地域福祉への貢献という企業理念の実現に向け、「お客様第一主義」

を念頭に、現在、子会社を含め90店舗の調剤薬局（アイランド薬局）を運営しております。薬局や薬剤師が何を求められているかを常に考え、今後も徹底的な従業員教育、サービスの向上、事業拡大を通し地域社会への貢献を目指しております。事業を展開する中で、クリニックの開業支援もおこなっておりますので、お気軽にご相談いただけたらと存じます。あわせて、昨今、業界全体で薬剤師不足が続いております。お知り合いに薬剤師さんがいらっしゃいましたらご紹介いただけますと幸いです。

野口記念インターナショナル 画像診断クリニックのご案内



当クリニックは、院長の佐藤俊彦先生が代表を務める宇都宮セントラルクリニックと提携しています。最新鋭医療機器を導入している施設との提携により、精度の高い各種検査を受けることができます。宇都宮で受けた検査結果を当クリニックでご説明することもできますので、是非ご相談下さい。

所在地 〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-22-13 虎ノ門秋山ビル2階

（提携医療機関）宇都宮セントラルクリニック



診療時間

外来診療時間：月～土 9:00～18:00

日 9:00～12:00

休診日：祝日

予約診療：有 健康診断・各種ドック：有

所在地 〒321-0001 栃木県宇都宮市屋敷町5 6 1 - 3

宇都宮セントラルクリニックでは、画像診断学を大幅に取り入れ、PETやMRI、CT等を使用した検査を行っています。国内では2台だけしか導入されていないPEM（乳房専用のPET検査）を備えた女性専門外来や、生活習慣病に関する世界最先端の装置を導入したクリニックであり、科学的根拠に基づいた医療（EBM）の確立を目指しています。



NOGUCHI TIMES

Noguchi International Business Conference News Vol. 5

発行日 2015年1月15日
発行人 安東 恭助
発行所 米国財団法人野口医学研究所
編集 〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-22-13
電話 03-3501-0130
米国財団法人野口医学研究所 参与会
